

昨年(2017年)はロシア革命100周年に当たり、革命とそこから誕生したソ連を再考する出版企画や雑誌の特集が目白押しとなった。現代世界に与えたその影響力に鑑みれば、昨年の動きを一過性のものにとどめず、ソ連の実験や経験から新たな知見を引き出す作業は国際政治学の観点からも意義があろう。本特集は、近年、めざましく進んだ世界的なソ連研究の動向を踏まえ、新しい視角・資料に基づく日本の研究成果を提示し、共有することを目指すものである。

具体的な研究課題は様々に考えられるが、一つの柱は、国際政治・国際関係理論への寄与を意図したソ連研究である。この20年程の間に、独自の統治システムを備えた多民族国家ソ連を対象にした帝国研究、ソ連時代の歴史的経緯や記憶／アイデンティティ政治を背景にした未承認国家や地域・民族紛争の研究など、理論的な貢献につながり得る成果が少なからず現れたが、なお一層その可能性を探る必要がある。20世紀国際システムの中核的パワーであったソ連を変数に組み込んだ、より一般的な理論研究の展開も求められる。

二つ目の柱は、歴史的、実証的な研究である。ソ連が健在であった時代から今日に至るまで、多国間ないし二国間関係の文脈でのソ連外交の研究、個別の歴史的事象をめぐるソ連の対外行動及びその対外政策決定過程の研究、核戦略のような軍事の領域から、経済協力、人権問題、環境問題に至る広範囲な国際的イシューへのソ連の対応を明らかにする研究などが進展をみた。既知のテーマを再考しつつも、新規のテーマをアーカイヴ文書などの新しい資料に基づき解明する取り組みがここでの重要な課題となる。

以上の二つの柱は、国際政治学、国際関係論の大枠に収まるが、仮にその枠組みを超えるものであっても、学術的に魅力的なインプリケーションを備え、ソ連研究の新機軸となりうるようなユニークな論稿は大いに歓迎したい。

なお、帝政ロシアや現在のロシア、旧ソ連・旧東側陣営に属した諸国やそれを横断する地域の研究も本特集の範囲内にあるが、その場合でも、歴史的な存在としてのソ連が考察の軸の一つに据えられたものが望ましく、執筆依頼にあたっては優先される。

以上のように、ソ連研究の現在的意義を示し、かつ新たな地平を展望しうる特集号となるべく、それに応える論稿を期待したい。

論文の執筆を希望される会員は、論文の仮タイトルと趣旨(600字～800字程度)を下記の編集責任者の連絡先までお送りください。締切りは2019年5月31日です。応募にあたっては、ご自宅とご勤務先・ご所属先の住所・電話/FAX番号、メールアドレスをお知らせください。検討のうえ、ご執筆願うことになった方には2019年6月30日までに編集責任者から連絡いたします。論文原稿の最終締め切りは2019年12月31日を予定しております。論文原稿の分量は註を含めて2万字以内です。査読のうえ、最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行は2020年5月31日を予定しています。執筆要領については、以下

の学会ホームページをご参照ください。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いいたします。

<編集責任者>松井康浩

<連絡先> 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744

九州大学大学院比較社会文化研究院

Tel/Fax 092-802-5617

Email: matsui★scs.kyushu-u.ac.jp (★を@に置き換えてください)